

独立行政法人 国際協力機構



アフリカ業界地図・ケニア編

・農作物（生鮮作物）バリューチェーン

2023年11月

アフリカビジネスパートナーズ

AFRICA BUSINESS PARTNERS

2023年11月作成

調査・レポート作成

アフリカビジネスパートナーズ合同会社

<https://abp.co.jp>

contactus@abp.co.jp

著作権について

本報告書の著作権は、独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」と言います。）に帰属しますので、該当する法域における法律が明文で利用を許諾している場合を除いては、第三者はJICAの許諾なくして、本報告書の複製、送信、貸与、翻訳、編集等、いかなる形態における利用も行うことはできません。本報告書は、JICAから事前に文書による許諾を受けた目的及び形式においてのみ、利用することができます。

免責について

本報告書はJICAがアフリカビジネスパートナーズ合同会社に委託して実施した調査の結果を取りまとめたもので、JICAの公式見解を示すものではありません。JICAは本報告書の内容の全部又は一部の正確性及び最新性について保証するものではありません。本報告書の利用によって利用者等に何らかの損害が生じた場合、JICAは一切の責任を負いません。

Copyright

Japan International Cooperation Agency (hereafter referred to as "JICA") holds copyright of this Report. No part of this Report may be reproduced, transmitted, distributed, translated, edited or otherwise exploited in any form by a third party without the express written permission of JICA, unless expressly permitted by the law of each jurisdiction in which such use is contemplated. This Report may be used only for the purpose and only in the format given with the prior written permission by JICA.

Disclaimer

This Report stems from a survey conducted by Africa Business Partners under the contract with JICA, and does not represent the official viewpoints of JICA. JICA does not guarantee the accuracy or the up-to-datedness of the whole or any part of this Report. JICA disclaims liability for any damage arising through the use of this Report.

目次

まえがき	1
調査概要	2
業界地図	4
1. ケニアの農家と対象農作物の分類	6
2. 生鮮作物の栽培から販売までのバリューチェーン（伝統的流通）	7
川下の需要家の分類	7
伝統的流通の川上から川下の流れ.....	7
伝統的流通のプレイヤー	8
3. 生鮮作物の栽培から販売までのバリューチェーン（近代的流通）	10
川下の近代的小売のニーズ.....	10
川下の外食チェーンのニーズ.....	12
卸事業者のバリューチェーンにおける役割.....	12
近代的流通のプレイヤー	14
4. その他生鮮作物の集荷、貯蔵、配送に係るプレイヤー	20
5. ケニアの生鮮作物の集荷、貯蔵、配送の現状に基づく日本企業への示唆	21
付録：個別プレイヤープロフィール（英文）	

まえがき

ケニアにおいて、農業は、人口の GDP の 34%、総雇用の 57%（農村人口の約 70%）、輸出額の 65%を占める重要産業である。首都ナイロビには、毎日多くの国産農産物や輸入作物が集約され、配送され、最終消費者へと向けられていく。しかしながら、そのバリューチェーンは長く複雑で、非効率である。複数の仲買人や卸事業者の手を経る過程で価格が上がり、農家の受け取る割合は低くなり、消費者は多くを払うことになる。倉庫や冷蔵設備、物流が整備されていないため、農作物は少しずつ劣化していき、売る前に廃棄せざるを得なくなりフードロスが発生する。

このような課題の多い流通は、いいかえるとビジネスチャンスが多いとも言え、バリューチェーンの効率化に取り組んでいる企業も多い。ケニアの生鮮流通は発展の過程にあり、日本企業が川上の農作物の栽培や川下の小売、川中の集荷や貯蔵、配送に関わり事業を行う機会が開かれている。

本調査は、農作物、なかでも生鮮作物のバリューチェーンに焦点をあて、これまであまり調査が行われてこなかった「川中」に該当する集荷・加工、貯蔵、配送を対象に、その構造と関連する現地企業の情報をまとめたものである。日本企業が生鮮流通に関わる事業を行う際に活用できることを念頭に、現地企業のニーズと業界大手の具体的な企業名について紹介している。日本で業界をクイックに理解するときに使われる手法である「業界地図」を用いて 1 ページに現地企業名を表した上で、そのニーズについて理解を深めるべく、レポートによって情報を補足している。

日本企業におけるケニアへの関心は高く、そのなかでも農業分野は、日本がさまざまな栽培、貯蔵技術を持つこともあり、可能性がある領域である。当業界地図とレポートが、日本企業がケニア事業を前に進めるにあたってきっかけや参考となり、日本とケニアの間のビジネス活性化に資することになれば幸甚である。

2023 年 11 月

アフリカビジネスパートナーズ合同会社

調査概要

調査の目的

本調査は、ケニアの農作物バリューチェーンに関わる現地企業名やそのニーズを紹介することで、日本企業の事業構築に役立てることを目的としている。

調査の対象

ケニアの農作物バリューチェーンのうち、以下を対象としている。

- ・ 対象作物:野菜、根菜、豆科野菜、果物、ナッツ、ハーブといった生鮮作物とその周辺作物。コーヒーや紅茶のような商品作物や、とうもろこし（メイズ）や米のような穀物は対象としない
- ・ バリューチェーンの領域:国内流通における川中、具体的には、集荷・加工、貯蔵、配送を対象とする。川上の農産物の栽培や、川下の小売は対象としない。ケニア国内での取引のみを対象とし、国外での取引は対象外とする
- ・ 対象企業:日本企業との協業や取引の可能性という観点から、法人登記などにより正式に登録されたフォーマルセクターの企業や団体を対象とし、なかでもその業界や領域における大手企業のみを対象とする。小規模事業者や個人事業主といったインフォーマルセクターは対象外とする

調査時期

2023年9月～2023年11月

通貨および為替レート

1ケニアシリング=1円

調査方法

アフリカビジネスパートナーズのネットワークにおける聞き取りや現地調査を通じて、バリューチェーン上の企業をピックアップし、訪問やオンラインでのヒアリングを行った。

JICA ケニア事務所の委託を受けて本調査を実施したアフリカビジネスパートナーズは、2012年に日本で創業し、アフリカに特化したコンサルティング・調査会社として、アフリカ各国で日本企業の委託を受け、調査や戦略立案を行ってきた。産業や業界、サプライチェーンを調査し産業構造の解明を行い、その業界の現地有力企業を見つけ出し紹介することには、多数の経験がある。調査以外にも、日本企業に対して、現地パートナーが必要な際の

提携先探索や、アフリカで事業を立ち上げる際の実行支援、M&A や投資を行う際のソーシングや FA 業務を 10 年に渡って行い、2023 年 6 月時点のプロジェクト実績数は 130 件となる。ケニアには現地法人を設立しており、自主調査も含め多くの産業調査を行っている。本調査はアフリカビジネスパートナーズがこれまでのプロジェクト実施経験から得た知見と、現地企業、現地専門家におけるネットワークを活用している。

調査内容へのお問い合わせ、掲載主要企業へのご紹介の依頼

アフリカビジネスパートナーズ

<https://abp.co.jp>

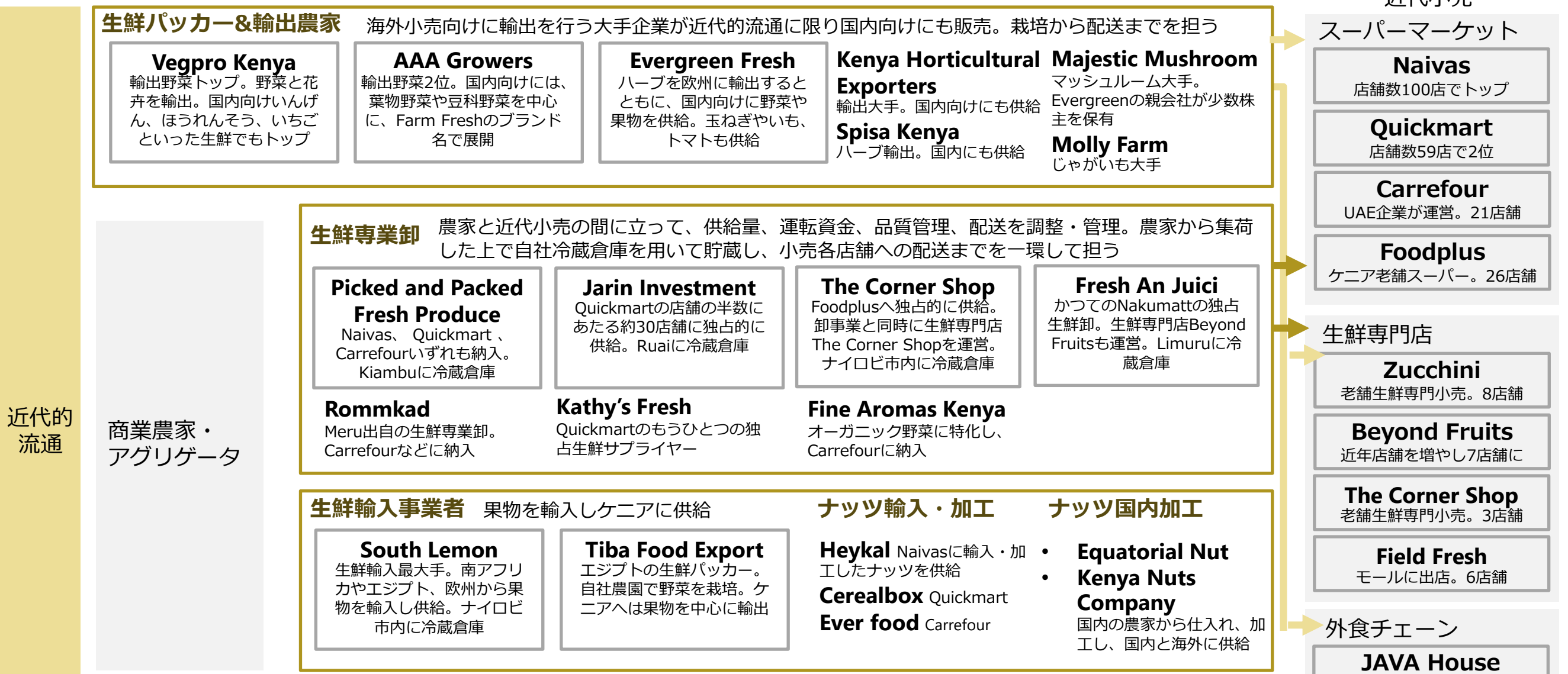
contactus@abp.co.jp

業界地図

農作物（生鮮作物）バリューチェーン

農作物（生鮮）バリューチェーン

生鮮作物の大半は非効率な伝統的流通で取引されている。近代小売や外食チェーン向けの近代的流通においては、生鮮パッカーや生鮮専門卸と呼ばれる少数の企業が、川中の集荷、貯蔵、配送機能を一手に担っている



1. ケニアの農家と対象農作物の分類

ケニアで農作物を栽培する農家は、輸出を目的とする民間企業農家から、自給自足に近い小規模農家まで、その主要な仕向け先（輸出向け、内需向け、自給自足用）と栽培作物によって、図表 1 のように分類することができる。輸出農家のうち園芸作物や果物を栽培する農家は、欧州などの海外の大手小売チェーンやレストランが顧客であるため、常に需要に応じた供給ができるように収穫数量を計画し、貯蔵することにより輸出量を調整し、品質を保持するため輸送における温度管理を行っている。内需向けの商業農家のうち野菜などを栽培する農家は、自給自足農家よりも広い圃場を持ち、売ることを目的として特定の作物に集中して栽培する。商業農家では、数ヘクタールから何百ヘクタールと広い圃場を持つ中規模～大規模商業農家と、数エーカー程度を栽培する小規模農家が混在している。商業農家の出荷した作物は、首都ナイロビをはじめとする国内の消費地に向けて流通する。自給自足農家の作物が農家の圃場近くのマーケットまでしか流通しないのに比べると、作物は長い距離を移動する。

図表 1 のうち、網掛け部分は本調査の対象である、野菜、根菜、豆科野菜、果物といったいわゆる生鮮作物を栽培している農家を示している。自給自足農家を除くと、野菜や果物を輸出している輸出農家と、内需の商業農家が該当する。

図表 1) ケニアの農家の分類

商圏		栽培作物例	農家の特徴	流通の特徴
大	輸出農家	園芸作物・果物	<ul style="list-style-type: none"> 大規模圃場で栽培する民間企業 労働集約的な作物は契約小規模農家に委託 	<ul style="list-style-type: none"> 栽培量や品質を管理し、洗浄・加工・包装を行った後、温度管理の上、海外小売などの需要家に輸出
		商品作物	<ul style="list-style-type: none"> 小規模農家が栽培し、農業組合や民間オフテーカーがとりまとめて出荷 	<ul style="list-style-type: none"> 政府が管理する価格・流通を通じて輸出される 商品作物として国際価格の影響を受ける
内需商業農家	穀物・主食	<ul style="list-style-type: none"> メイズ、米、小麦、プランテン、ミレット、サトウキビ 	<ul style="list-style-type: none"> 数ヘクタール以上で栽培する中規模商業農家と、数エーカーを栽培する小規模農家が混在 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的流通で売買される他、農家から買い取った製造業者が国内で精製・加工して販売
	野菜類	<ul style="list-style-type: none"> いも、トマト、玉ねぎ、葉物野菜、豆、ハーブ 	<ul style="list-style-type: none"> 数ヘクタール以上で栽培する中規模商業農家と、数エーカーを栽培する小規模農家が混在 	<ul style="list-style-type: none"> 大半が伝統的流通を通じて、品質管理や温度管理はされずに国内消費地へと流通 近代的な小売向けの流通が別途存在
小	自給自足農家	<ul style="list-style-type: none"> 穀物、野菜、豆 	<ul style="list-style-type: none"> 自家消費用として多様な作物を少量栽培し、余剰分を販売 	<ul style="list-style-type: none"> 農家の圃場近くの近隣市場で販売される

2. 生鮮作物の栽培から販売までのバリューチェーン（伝統的流通）

川下の需要家の分類

本調査の対象である野菜、根菜、豆科野菜、果物といった生鮮作物が、国内において入手される場所、つまりバリューチェーンの川下は、大きく2つにわけられる。ひとつは、伝統的な青空マーケットや路上のベンダー、パパママショップ、食堂であり、もうひとつはスーパーマーケット、ファストフード店といった、企業として事業を営み、近代的な経営手法を用いて複数の店舗のオペレーションを管理する、近代的な小売・需要家である。前者に通じるバリューチェーンは伝統的流通、後者は近代的流通とも呼ばれる。

ケニアにおいて、この2つの需要家は、生鮮作物のバリューチェーンにおいて交わることがない。伝統的小売と近代的な小売では、仕入れる相手も流通の流れもまったく違っている。

図表 2) 生鮮作物の需要家の類型

	事業者タイプ	流通	具体例
伝統的小売・需要家 (伝統的流通)	<ul style="list-style-type: none"> 青空マーケット ベンダー パパママショップ 路上の食堂や小食堂 	<ul style="list-style-type: none"> 法人登記をしていない個人事業主や個人経営 通常1店舗のみ インフォーマルセクターが関与 	<ul style="list-style-type: none"> City Market Kangemi Marketなど地域の青空マーケット
近代的な小売・需要家 (近代的流通)	<ul style="list-style-type: none"> スーパーマーケット 外食チェーン 	<ul style="list-style-type: none"> 法人として運営 近代的な小売・外食の経営手法を取り入れ、多店舗展開 フォーマルセクターが関与 	<ul style="list-style-type: none"> Naivas、Quickmart、Carrefour、Foodplus Zucchini、Beyond fruits Java House、KFC、Simbisa

伝統的流通の川上から川下の流れ

伝統的流通に対して農作物を提供する農家は、図表 1 でいう商業農家のうち、相対的に小規模な農家である。これら小規模農家は、ミドルマンやブローカーと呼ばれる個人の仲買人に作物を販売する。農家の規模が小さくなるほど商圏も小さくなる傾向があり、小規模農家にとっては、遠い市場まで売りに行くのは負担が大きく、また買い手とのネットワーク構築も難儀である。圃場までトラックでやってきて買付をしてくれる仲買人はありがたい存在でもある。その仲買人は、また別の仲買人に販売し、いくつかの取引を経て農作物は消費地のマーケットにたどり着く。

ケニアで生鮮作物の取引が行われる市場としてもっとも規模が大きいのは、ナイロビにある **Wakulima Market** である。大型のトラックが、仲買人を通じて集めた作物や、タンザニアなどからの輸入作物を乗せて、朝暗いうちにこの生鮮市場にやってくる。市場のなか

には、作物ごとに卸を行う人達がグループを作っており、リーダーを中心に相場となる買い取り価格を決めている。卸はトラックから作物を買い取り、それをより小さな卸事業者や小売業者に卸していく。Wakulima Market に一般の消費者が買いに来ることはほぼなく、買い手は二次市場の卸事業者や、路上で野菜や果物を売るベンダーと呼ばれる人たちやパパママショップに対して卸すトレーダーが中心で、ときに小売店自身やレストランが買いに来る。いずれにせよプロ向けの市場である。

Wakulima Market から卸される二次市場として、ナイロビでよく知られるのが **City Market** である。ここに店舗を持つ卸事業者は、取り扱う農産物の大半を Wakulima Market から仕入れており、需要の大きくないサブの作物や流通経路が限定されている特定の作物はそれを扱う卸事業者から別途仕入れている。City Market 内の卸事業者の誰かが仕入れたものを分け合うことも多い。City Market には、ここからまた三次市場や小売店に卸す卸事業者や、小売店やレストラン自身が買いに来るほか、一般の消費者もやってくる。

輸入果物については、輸入業者が集まる業者向けマーケットが別にある。南アフリカやエジプトなどから輸入されたりんごやぶどう、オレンジといった果物を乗せたトラックがひとところに集まり、卸事業者によって買われていく。

City Market の内部 (ABP 撮影)



輸入果物の業者向け市場 (ABP 撮影)



伝統的流通のプレイヤー

こうやって、農家が仲買人に売った生鮮作物や、輸入業者が輸入した果物は、複数の仲買人や卸事業者を経て、三次市場以降となる地域毎にある青空マーケットや、路上で野菜や果物を売るベンダー、パパママショップ、食堂やレストランへと流れ着く。流通経路が複層的で長だけでなく、取引関係は流動的であり、決まった取引が継続する保証はない。さらにこのバリューチェーンに参加しているプレイヤーには、法人登記をしている企業はほぼ存在しない。川上の小規模農家も、大型のトラックで野菜を運びこむ仲買人も、一次市場や二次市場で場所を構える卸事業者たちも、川下の伝統的小売も、ほぼすべてが登記を行わずに商売を行ういわゆるインフォーマルセクターの人たちである。ケニア全体の生鮮作物の流

通を俯瞰すると、市場規模としては、この伝統的な流通の方が近代的な流通よりも圧倒的に大きい。しかしながら、法人登記を行っていない彼らは、売上や支出の記録がなく、事業の税務登録を行っておらず、契約でなく慣行による取引を行っており、日本企業のような外資企業が継続して取引を行うにはハードルが高い相手となる。

この伝統的なインフォーマルプレーヤーによる流通に、フォーマルな企業として参加しようとするスタートアップも存在している。農家から需要家までの長いバリューチェーンにおいては、複数の取引を経るたびにマージンが乗せられ価格が上がっていき、農家の取り分の割合は減っていく。またこのバリューチェーンの参加者はいずれも冷蔵設備を持ち合わせないため、生鮮作物の品質は少しずつ劣化していき、最終的に大量の廃棄物が生じる。こういった流通の非効率を解決するべく、テクノロジーを活用して農家と需要家を直接結びつける試みが行われている。たとえば、農業インプットの効率的な供給に取り組む **iProcure** は、小規模農家の農作物の効率的な販売にも取り組んでいる。**Taimba** は、小規模農家の農作物を集めて直接パパママショップに配送している。**Kyosk**、**Twiga foods** といった、パパママショップやベンダー向けにアプリを通じて食品や日用品を卸すいわゆる B2B コマースを提供するスタートアップも、一部生鮮作物を扱っている。Kyosk は、2023 年に外食向けに生鮮作物の配送を行うスタートアップである Kwik Basket を買収して、生鮮作物領域の強化を図った。食堂やレストラン、ホテル、学校といった外食向けの生鮮作物の流通もまた、小売に次いで流通量が多く、同様に非効率である。**Tawi Fresh** も主として外食向けに、小規模農家の生鮮作物を届ける事業を行っている。**SokoFresh** は、生鮮作物の伝統的流通においてはコールドチェーン配送が行われていないことに目をつけて、小規模農家向けに温度管理がされた配送ハブを提供している。

小規模農家の作物を集めて需要家に直売する事業は、比較的参入障壁が低いこともあり、スタートアップ以外にも、オンライン・オフライン関わらず多くの中小企業や個人が参加している。特定の地域の農家ネットワークを持つ企業などが、川下のベンダーやパパママショップに直接販売したり、レストランやホテルを開拓して直接卸したり、自ら都市部に店舗や移動式自動車を使って販売拠点をもつなどして、川下の需要家と直接結びつける事業に挑んでいる。e コマースのような形をつかってオンライン上に農産物をアップロードし、需要家や消費者とマッチングする企業もある。しかしながら、メイズ粉や食用油といった主要な食品と比べて、後に述べるように生鮮作物は農家からの調達も流通上の取り扱いも容易ではなく、現時点でスタートアップや中小企業における生鮮作物の取り扱い量や種類は全体の流通量においては少数に留まっている。

3. 生鮮作物の栽培から販売までのバリューチェーン（近代的流通）

川下の近代的小売のニーズ

もう一方の、近代的小売・需要家につながる近代的流通については、法人登記を行っている企業や、行っていないとしても規模の大きな農家や卸が主要なプレーヤーである。なぜなら川下に位置する需要家が求める条件を満たそうとすると、規模化せざるを得ないからである。また、需要家によっては、コンプライアンスや品質管理の観点から法人登記がされていることを取引の条件にする企業もある。

近代的流通における主要な需要家は、**Naivas**、**Quickmart**、**Carrefour**、**Foodplus** といった、購買力の大きい全国展開を行うスーパーマーケットチェーンである。

図表 3) ケニアのナショナルスーパーマーケットチェーンと店舗数

	店舗数	企業概要
Naivas	<ul style="list-style-type: none"> 総店舗数:100 うちナイロビ店舗数:45 	<ul style="list-style-type: none"> 1990年にNakuruで家族経営企業として創業 2020年以降複数のプライベートエクイティなどに株式を売却し経営の近代化に取り組む。現在はモーリシャスのIBL Groupや仏開発金融機関Proparcoら外部株主が過半数を保有 ナイロビに中央配送センターを保有
Quickmart	<ul style="list-style-type: none"> 総店舗数:59 うちナイロビ店舗数:31 	<ul style="list-style-type: none"> 2006年にNakuruで家族経営企業として創業 2019年にモーリシャスのプライベートエクイティAdenia Partnersが参画し、Tumaini Self Serviceなど地場スーパーを買収・統合 一部店舗で24時間営業を取り入れ
Carrefour	<ul style="list-style-type: none"> 総店舗数:21 うちナイロビ店舗数:17 	<ul style="list-style-type: none"> 2016年に最初の店舗が開店 UAEのMajid Al Futtaimがフランチャイジーとして運営。同社はエジプトでCarrefour関連ブランドのハイパーマーケット、スーパーマーケット、Cash & Carryなど複数の店舗形態を運営。ケニアはアフリカ2カ国目の進出国
Foodplus (Chandarana)	<ul style="list-style-type: none"> 総店舗数:26 うちナイロビ店舗数:16 	<ul style="list-style-type: none"> 1964年創業の家族経営企業 ケニアの老舗スーパーとして、経営陣のネットワークを活用して独自の品揃えを行う

近代的な経営を行うスーパーマーケットチェーンにおいては、棚に常に同じ商品を決まった量だけ並べる安定供給は義務である。生鮮作物はスーパーの目玉商品のひとつであり、品質と種類、そして競争力のある価格を担保することは前提である。川上の農家と川下のこういったニーズを持つ近代的小売の間に立つのは卸事業者で、生鮮作物を卸す卸事業者に求められる水準は、以下の理由から高く、事業の難易度が高い。

そもそも農作物の栽培は、天候次第で栽培の量や質が変動する。とくにケニアの農家は、商業農家であっても灌漑設備やビニールハウスなどを設備していないことも多く、降雨に頼った農業を行っているため、変動が大きい。一方で小売においては、消費者からいつも同

じ品質のものを決まった量だけ並べることが求められるため、卸事業者はこのギャップの調整弁となって、スーパーからのオーダーを満たすために奔走する。生鮮食品の場合は収穫のあとから劣化が始まるため、長く保管しておくことができない。また生鮮食品は多品種少量ずつの販売となるため、オーダーに応じるための調整・管理はさらに複雑となる。

相対的にキャッシュフローに乏しい農家に対しては、当日や翌日など早く支払いを行う必要があるのに対し、近代的小売の支払いサイトは、取引条件によって違いはあるものの、最短でも 2 週間、長い場合は 90 日程度であるため、卸事業者のキャッシュフローは膨らみ資金繰りが難しくなる。

ケニアの近代小売はいずれも、生鮮作物の在庫、配送を自社で行わない。中央配送センターを持つ業界最大手の Naivas も、Quickmart も、生鮮作物については店舗で受け取っている。つまり、卸事業者は自社で倉庫を持ち、トラックとドライバーを手配して、Naivas なら 100 店舗、Quickmart なら 59 店舗ある店舗に直接届けなければならない。生鮮であるがゆえに、配送は小口多頻度となり、开店前の朝の早い時間となる。このオペレーションの管理は困難であるだけでなく、ミスひとつ、トラブルひとつで利益を吹き飛ばす。できるだけ少ない台数で効率的に配送を行いたいと工夫しても、スーパー側からすると生鮮品の受け入れ業務は品質保持の肝であるため時間を要し、またそもそも受け入れプロセスが効率的でないために、何時間も待たされトラックが留め置かれることも多い。

さらに、近代的小売は、店舗に並べたあとに品質が劣化して廃棄処分となった生鮮作物を、卸事業者に引き取らせている。あらかじめ廃棄率を決めて販売価格から差し引く場合や、店舗で廃棄処分となった量に応じて支払いを減らす場合もある。廃棄率は、店舗自身の生鮮管理能力によるところも大きい。卸事業者はそれによる売上の減少を受け入れなければならない。さらに生鮮作物は需給のバランスによって相場が変動するため、販売価格が上下し、売上金額の予測はさらに難しくなる。

写真) Carrefour の生鮮売り場 (ABP 撮影)。値札の横のケニアの国旗は、ケニア国内で調達したことを示している。2016 年に Carrefour がケニアに最初の店舗を出店した頃は、生鮮は輸入ものも多く調達先も限られていたが、昨今ではほぼケニア産で賄われている



川下の外食チェーンのニーズ

図表 2 に示した近代的流通の需要家として、スーパーマーケット以外には外食チェーンが挙げられる。ケニアの外食チェーンで最も店舗数が多いのは、国内に 73 店舗を持ち、ウガンダとルワンダでも展開している **Java House** である。Java House は、カフェと飲食を複合した外食チェーンで、創業は 1999 年とケニアの外食チェーンのさきがけとあってよい。多国籍外食企業としては、ケニアにはマクドナルドは進出していないが、2011 年にはケンタッキーフライドチキン (**KFC**) が事業を開始している。世界中でフランチャイズ形式にて店舗を運営している KFC のケニアでの運営は、**Kuku Foods Kenya** が担っており、現在 36 店舗まで増やしている。アフリカ 10 カ国で展開し、アフリカ出自の外食チェーンとしては最大手である、**Simbisa Brands Africa** は、ケニアで Chicken Inn、Pizza In といったファストフードから Ocean Basket といった中価格帯の外食まで、9 ブランドの外食チェーンを広く展開している。この 3 社がケニアにおける外食チェーンの大手企業である。

Java House は店舗数が増えたタイミングで、セントラルキッチンでの調理に移行した。外食チェーン側からすると、セントラルキッチン形式を用いることで、調達を一元化してバイイングパワーを発揮することができ、品質に関する厳しい条件をサプライヤーに課すことができる。一方 KFC は、セントラルキッチンを保有しておらず、調理の大半の工程はサプライヤーが行っている。国内調達している鶏肉、輸入しているポテトとも、下処理され加工された状態でサプライヤーが店舗に配送し、店内では揚げるなどの最終工程のみを行っている。トマトやレタスといった野菜についても、サプライヤーが洗浄やカットを行い、店舗に配送する。つまり、生鮮をそのまま仕入れることはしておらず、生鮮の加工もできる企業が取引相手となっている。Simbisa Brands Africa は、サプライヤーが店舗に生鮮を含めて直接配送し、店舗で下処理を含めた調理を行っている。大手 3 社は生鮮の扱いについて、それぞれ違う方法をとっているといえる。

卸事業者のバリューチェーンにおける役割

難易度が高い近代的小売向けの生鮮作物の供給に卸事業者が対応するためには、取引相手となる農家は選別せざるを得ない。決まった量を決まったタイミングまでに納入できないリスクが高い小規模農家は取引相手から外れる。広い圃場を持ち一定量を定期的に収穫できたり、確度高くオーダー通りの農作物を用意するために、複数の農家を束ねて卸機能も兼ねるような、いわゆるアグリゲーターと呼ばれる地域の中心的な商業農家が相手となる。スーパーからのオーダーは、早くても 1 週間前、前日夕方に知らせる企業もある。農家から調達できないリスクに備えるために、卸事業者は自社で倉庫を持ち、冷蔵設備を完備して

余剰を保管しておく。また、自社で圃場を持ち、栽培も行っている卸事業者も多い。

生鮮作物の卸事業者は、配送をサードパーティに頼むことはない。それは、朝早くから出荷を開始し効率性が求められるコールドトラック配送を、生鮮作物の利益率に見合ったコストで請け負うことができる配送事業者が存在しないからである。ケニアにもコールド物流や店舗への小口配送を行う配送事業者は存在しているものの、外部に委託する場合と内製する場合での費用には大きなギャップがあるため、生鮮作物以外の食品や日用品においても、それが可能な企業は配送を自社で内製化している。倉庫や冷蔵設備、配送トラックや燃料、ドライバーといった固定費的な費用を負担し利益率を確保する必要性が生じるため、卸事業者は取り扱い量が多い作物を扱うか、多品種を扱い利益率を確保しようとするようになる。

つまり、生鮮作物の卸事業は、多品種低利益率な取引であり、運転資金が必要で、オペレーション集約型であり、高い経営力が求められる事業となる。これを表すかのように、卸事業者の入れ替わりは激しく、数年で撤退する企業があとを絶たない。とくに卸を専業で行う生鮮卸はその傾向が強く、5年を超えて継続して事業を継続できる企業は珍しいくらいである。

ところで、この事業領域に参入している企業としては、生鮮専業卸以外の企業もある。図表1でいう輸出農家は、輸出のみならず、国内市場向けの供給も、近代的小売や外食チェーンを相手とする場合に限って行っている。輸出農家は、輸出先となる海外の小売企業の安定供給ニーズに応えるために、自社で圃場を持ち、小規模農家を束ね、計画的に収穫量を管理できる体制を整えている。倉庫や冷蔵設備は完備しており、空港までのコールド流通を自社トラックで日常的に行っており、多品種の生鮮作物を大きな量で取り扱っている。また、生鮮作物を輸出するにあたっては、洗う、切るなどの加工を行ってパッキングすることが必須であることから加工設備を持ち合わせており、外食向けにも対応できる。このように輸出先の近代的小売と国内の近代的小売や外食チェーンの要求水準は重複するため、輸出農家にとっては対応が可能なのである。

生鮮作物を洗浄、カットした後パッケージングするところまでの機能を持っていることから、これら輸出農家は生鮮パッカーと分類されることもある。スーパーマーケットの店頭と並ぶ、プラスチック容器でパッケージングされたいんげんやブロッコリー、ほうれんそうやレタスなどの葉物野菜、プチトマト、パプリカ、ハーブといった高価格帯野菜、いちごやベリー類といった果物は、これらの輸出を行っている生鮮パッカーが国内スーパーマーケットに納めている。輸出農家は輪作や圃場の有効活用のために、または内需向けに、輸出はしない玉ねぎやかぼちゃなども栽培しており、これらもスーパーマーケットに並んでいる。

ケニアの近代小売で販売される生鮮作物のうち、野菜は国内調達されているものの、果物は輸入が多い。オレンジ、ぶどう、りんごといった果物は、輸入業者がスーパーに直接納入している。輸入業者も、冷蔵設備を完備し、自社で配送を行っている。

近代的小売・需要家への卸事業者としての機能を持つ、生鮮専業卸、生鮮パッカー、生鮮輸入事業者は、本調査の対象領域であるバリューチェーンの川中、つまり集荷・加工、貯蔵、配送のすべての機能を担っている。外部へ委託を行ったり、小売事業者が配送の一部を担うことはない。これらすべてが自社でできなければ、参入も事業継続も難しいため、インフォーマル流通と比べて参入障壁は高く、また事業を継続することも難しい傾向がある。

写真) 生鮮パッカーが納入している、いんげん、ブロッコリー、パプリカ、ほうれん草などの野菜 (中段、ABP 撮影)



写真) 生鮮パッカーが納入している野菜類 (左) とベリーやいちごといった果物 (中央)。右端のぶどうは生鮮輸入卸が納入したもの



近代的流通のプレイヤー

これまでみてきたように、近代的流通に対して農作物を提供する農家は、図表 1 でいう商業農家のうち、数ヘクタールから数百ヘクタールの規模で栽培する中・大規模の農家と、輸出農家・生鮮パッカーが該当することになる。中・大規模の商業農家は、生鮮専業卸に対して納めるほか、近代的小売に対して直接卸すこともある。スーパー側も欠品リスクに備えて、通常ひとつの作物に複数のサプライヤーを設定しており、商業農家から直接調達することもあるためである。

輸出農家であり生鮮パッカーである企業のなかで、内需向け販売のシェアが高いのは、**Vegepro Kenya、AAA Growers、Evergreen Fresh** の 3 社である。これに **Kenya Horticultural Exporters** を加えた 4 社が、内需向けにも対応している主要な輸出農家、生鮮パッカーと言える。この 4 社は、どのスーパーマーケットにも納入しており、前ページの写真にあったような、加工・パッケージングされた野菜や果物においては市場を独占している。Vegepro Kenya、AAA Growers、Kenya Horticultural Exporters の 3 社は、ケニアの生鮮野菜の輸出農家としても上位 3 位の輸出量を持つ企業である。Vegepro Kenya は野菜と花卉を、2,500 ヘクタールの自己圃場と契約小規模農家 3,000 人を通じて栽培、収穫し、洗浄、カット、パッケージングした後に輸出している。AAA Growers も野菜と花卉を両方扱っており、400 ヘクタールの自己圃場と 4 つの加工工場でパッキングして輸出している。Kenya Horticultural Exporters は、3 つの自己圃場と 3 つの加工工場を持ち、1,000 人の契約農家を抱えている。

2020 年に創業した Evergreen Fresh は、欧州向けにハーブを中心に輸出している。国内近代小売向けには、パッケージされた野菜や果物のほか、トマトや玉ねぎ、いも類、かぼちゃ、すいかといったパッケージされずに流通する野菜や果物も供給している。

Kenya Horticultural Exporters は、2011 年にケンタッキーフライドチキンがケニアに進出した際に、最初に野菜の調達を担った企業である。前述のように、KFC は自社で調理を行わず、洗浄やカットされた状態の野菜をサプライヤーが店舗まで配送する必要があるため、加工設備を持つ生鮮パッカーの独壇場である。現在は Kenya Horticultural Exporters の他に、AAA Growers が KFC 向けに野菜を供給している。なお、KFC とは違いセントラルキッチンを採用している Java House においても、品質が高い生鮮作物を安定的に供給できる AAA Growers、Evergreen Fresh ら輸出農家・生鮮パッカーは、主要なサプライヤーとなっている。

一方、店内調理を行っている Simbisa Brands Africa は、むしろこれら大手生鮮パッカーよりも商業農家を重用しており、サプライヤーの入れ替わりも頻繁でない。特定の商業農家と深い関係を構築することで、交渉力を持ち、価格を下げ、さまざまな融通を効かせる試みである。

生鮮専業卸では、Carrefour、Naivas、Quickmart のすべてに納入している **Picked and Packed Fresh Produce** が大手として挙げられる。ナイロビ市場への近郊農業拠点のひとつであり、バナナの産地である Meru で 2012 年に創業された、きょうだいで経営する企業である。Meru からナイロビにかけての農業地帯に、同社いわく約 2,000 の農家・アグリゲーターとのネットワークを持つ。ナイロビ近郊の Kiambu に倉庫と冷蔵設備を持ち、22 台の自社トラックでスーパーマーケットの店舗に直接配送する。

Jarin Investment は、同じくナイロビ市場への近郊農業の拠点であるケニア山周辺での農業から始まった企業で、Quickmart が買収・統合により現在のような近代的なスーパ

一になる前から生鮮作物を納入していた。現在では、Quickmart 全 59 店舗のうち約 30 店舗ほどに対して、生鮮パッカーと生鮮輸入事業者が納める生鮮作物「以外」のあらゆる野菜と果物を独占的に納入している。Ruai に倉庫と冷蔵設備を持ち、300 の農家を管理する。

Quickmart の残りの約 20 店舗に納入するのは、前述の Picked and Packed Fresh Produce の姉妹会社である **Kathy's Fresh** である。Kathy's Fresh もまた、生鮮パッカーと生鮮輸入事業者が納める以外のあらゆる野菜と果物を、Quickmart に対して独占的に納入している。Quickmart 側からみると、主要な生鮮専門卸として、Jarín Investment と Kathy's Fresh の 2 社を設定しているといえる。Quickmart は法人登記を行っていない企業とは取引を行わず、取引先を集約する戦略をとっている。

ケニアの老舗スーパーである Chandarana Foodplus に独占的に生鮮作物を納入しているのは **The Corner Shop** である。同社は Foodplus への生鮮卸だけでなく、自らの店舗も運営している。日本人がよく利用するショッピングセンター Yaya Center に店舗を持つ。The Corner Shop は、Foodplus のほぼ全店舗に、生鮮パッカーと生鮮輸入事業者が納める以外の大半の野菜と果物を独占的に納入している。ナイロビ市内に倉庫と冷蔵設備を持ち、独自のネットワークを通じて商業農家や生鮮専門卸からの仕入れた生鮮作物を保管し、各店舗への配送はそこを起点に自社で行っている。

納入業者の集約化を行う Quickmart や Foodplus と違い、Naivas は、独占的な生鮮専門卸を設定するのではなく、地域ごとに地域内のサプライヤーから調達する方針をとっている。配送時間を短縮し、物流コストを下げ、新鮮さを保つための方針であり、地域の商業農家から直接購入する割合も高い。他のスーパーに比べて店舗ごとの裁量も残っているため、店舗によって納入業者が違う場合も多く、全社としての納入業者の数は競合に比べて多い。

Naivas に納入する商業農家 (ABP 撮影)



Naivas の生鮮売り場 (ABP 撮影)



Carrefour もまた、独占的な生鮮専門卸を設定せずに、作物ごとに複数のサプライヤーを設定している。前述の Picked and Packed Fresh Produce のほか、同じ Meru 出自である **Rommkad**、Kiambu に拠点を持つ匿名を希望する生鮮専門卸、生鮮パッカーでもある Evergreen Fresh などが、主要な卸事業者となる。

これら大手生鮮専門卸は、スーパーマーケットへの供給には強いものの、外食チェーン向

けへの供給は一部に留まっている。生鮮パッカーと違い加工機能を持っていないことや、外食チェーンは取引価格が安く、特定のサプライヤーとの関係が深いことが多いため、商売としての旨味が少ないからである。

かつて 100 店舗以上を抱えシェアトップであったスーパーマーケット Nakumatt（債務超過により倒産）に対して独占的に生鮮作物を納入していた **Fresh An Juici** は、Limuru に倉庫を持ち、いまま生鮮専門卸やレストランなどとの取引を行っている。さらに近年は、**Beyond Fruits** という生鮮専門の店舗ブランドを立ち上げ、小売にも進出した。Beyond Fruits は、店内にフレッシュジュースのスタンドを設置するなどの特徴を打ち出し、モールや路面店を中心に 7 店舗を展開している。

Beyond Fruit の外観（ABP 撮影）



Field Fresh の外観（ABP 撮影）



Beyond Fruits のような生鮮専門小売はほかにも存在する。**Zucchini** は 30 年前となる 1991 年に生鮮専門卸として創業した企業で、その後小売に進出した。ケニアにおける生鮮専門小売のさきがけであり、それまで青空マーケットなどの伝統的小売でしか買えなかった生鮮作物の販売を近代化した。モダンな内装の店内に珍しい野菜も扱い、都市部ナイロビに住む、多少高くとも新鮮で適切に扱われた野菜を買いたい人たちに支持されてきた。創業 30 年を迎え 2 代目へと移る難しい局面を迎えているが、店舗数は 8 店舗と生鮮専門小売ではもっとも多い。Zucchini は作物ごとに複数のサプライヤーを設定しており、商業農家からの直接調達も多く行っている。本店のある ABC Place に倉庫と冷蔵設備を備えており、卸事業者や商業農家が持ち込む。いったんすべての作物を集約したのち、各店舗への配送は Zucchini が行っている。

同様の生鮮専門小売として近年店舗数を伸ばしているのは **Field Fresh Vegetables** で、モールやショッピングセンターに出店し、6 店舗を構えている。

Zucchiniの倉庫と配送スペース(ABP 撮影) Zucchini の店舗 (ABP 撮影)



輸入果物の近代的小売への供給では、**South Lemon** が強い。南アフリカなどから輸入したりんごやオレンジといった果物に簡単なシールやパッケージを施し、スーパーに卸している。ナイロビ市内に倉庫と冷蔵設備を保有しており、近代小売だけでなく、City Market など二次マーケット向けの卸も行っている。**Tiba Food Export** はエジプトの生鮮パッカーで、エジプト国内に圃場を有する。ケニアはエジプトにとって野菜や果物の輸出先であるが、同社は自社農園やエジプトの農家から調達した果物をケニアに輸出している。

Del Monte (デルモンテ) はケニアに広大なパイナップル農園を保有している。ケニアで栽培したパイナップルを輸出するとともに、国内の近代的小売向けにも販売している。さらには、そのパイナップルを国内で加工して缶詰にして、スーパーマーケットで販売している。

Del Monte のように、ケニアの国内で栽培された生鮮作物を用いて、野菜や果物の缶詰、瓶詰め、ジャムなどを製造している企業も、集荷・加工、貯蔵、配送といった川中のバリューチェーンに関わっているといえる。とはいえ、ケニアで販売されているトマトやコーン、豆の缶詰、果物やココナッツの缶詰、果汁を使ったジュース類のほとんどは輸入品であるのが実態である。そのなかで健闘しているケニア企業をいくつかとりあげる。

Trufoods は、トマトやコーン、豆類の缶詰やジャムやケチャップといった生鮮作物の加工品を、Kenylon と Zesta というブランドのもと製造販売している。原料となる農作物はケニアの農家から調達している。同社は 1958 年創業で、ケニアの現地企業、現地製造業の第一世代といえる。同社の商品は、ケニアのみならず、ウガンダ、タンザニア、ザンビアへと輸出されている。Trufoods と似た商品ラインナップを展開しているのが **Premier Foods** である。Peptang のブランド名で、トマト加工品、ケチャップ、ジャム、野菜や果物の缶詰などを製造している。同社は PEP のブランド名でジュースも製造しているが、輸入濃縮果汁を使用しており、ケニアの果物から作られてはいない。KOL というブランド名で豆類の缶詰を製造しているのは、Nakuru に拠点を置く **Njoro Canning** である。豆類の缶詰は特に輸入品が強いなか、健闘している。

写真) スーパーマーケットの缶詰売り場 (ABP 撮影)



ケニアのスーパーマーケットには、たいいていナッツ売り場があり、多様な種類のナッツや豆、米、ハーブらが並べられている。こういったナッツは、一部は国内で原料を調達し、ほかは輸入した上で、国内で加工している。Naivas に並ぶナッツ類は **Heykal** が、Quickmart に並ぶナッツ類は **Cerealbox** が、Carrefour に並ぶナッツ類は **Eve Food** が主要なサプライヤーとなっている。スーパーのコーナーでなく、袋入りの加工ナッツを販売している企業としては、**Equatorial nut** や **Kenya Nuts Company** が挙げられ、これら企業は国内農家から調達し、加工を行っている。健康関連の商品を扱う Healthy U を運営する **Healthy U 2000** は、自社ブランド **Naturalli** としてナッツを製造販売している。

Qucikmart 店内のナッツコーナー (ABP Healthy U が扱うナッツブランド (ABP 撮影)



4. その他生鮮作物の集荷、貯蔵、配送に係るプレーヤー

ケニアの生鮮作物のバリューチェーンにおいて、川中の集荷、貯蔵、配送のプロセスは分業化されていない。輸入農家である生鮮パッカーは栽培から配送までを自社で担い、生鮮専業卸は、商業農家から集めた作物をスーパーマーケットの店舗に届けるところまでのすべてを業務範囲としている。分業されないのは、求められるサービスが求められる価格で提供されていないからである。ケニアの倉庫・物流事業者においては、大手ビール会社などに対応する大手ロジスティクス会社と、地域の配送業者の間に位置する、中堅の 3PL の層が手薄である。とくに生鮮作物のようにコールドチェーンが必要で扱いが難しい、多品種小口配送品を、川下の顧客が求める時間帯や効率性で、内製化するよりもコストメリットのある価格で請け負える企業が少ない。逆にロジスティクス会社からすると、鶏が先か卵が先かという話だが、そうやって外部に委託されていないがゆえに需要が小さく、投資の価値が見込めないとなる。ケニアにおいて近代的な小売や外食チェーンがいまよりも増えて、規模のある受注が見込めるようになれば、サードパーティへと分業される可能性があるだろう。現在生鮮作物のサードパーティが必要な企業は、輸出入におけるフォワーディング業務が本業である **Kuehne+Nagel (Kenya)** や **Panalpina AirFlo** などに委託している。かつて KFC の配送を担っていた **Big Cold** もその一端に挙げられる。

生鮮作物の集荷、貯蔵、配送を、温度管理をした上で効率的に行うことを請け負う専門の物流会社が少ないという問題意識から、生鮮作物や医薬品などのコールドチェーンを前提とする製品を対象にした専門事業者は登場しつつあり、今後の普及が期待されている。たとえば、冷蔵倉庫を専門とする企業としては、ナイロビ郊外に政府が主導して建設した工業特区 Tatu City などに自社倉庫を持つ **Africa Logistics Properties** と **Cold Solutions East Africa** が挙げられる。

5. ケニアの生鮮作物の集荷、貯蔵、配送の現状に基づく日本企業への示唆

ケニアの生鮮作物のバリューチェーンは、大きく伝統的流通と近代的流通に分けられる。流通量では伝統的流通が大きく、多くの生鮮作物は、法人登記をしていない個人や個人に近いインフォーマルセクターのプレーヤーによって、複層的で流動的な流通経路を、温度管理がされないまま取引されている。一方で並行して、流通量としては相対的に小さいものの、首都ナイロビや国内の中都市を含む都市部を中心に、近代的小売であるスーパーマーケットや外食チェーンが存在しており、これら需要家に供給する近代的流通においては、輸出も行う生鮮パッカーや生鮮専門卸といった少数の企業が、生鮮作物のバリューチェーンの川中にあたる集荷、貯蔵、配送の機能を一手に担っている。

日本企業が川上の農業栽培に関わる場合、近代的小売や外食チェーンは販売先になりうる。ただし、これら近代的小売はサプライヤーに複数店舗への毎日の配送や加工を施すことを求めるため、自社単独での供給はハードルが高い。保管や配送にかかる投資や固定的な費用に鑑みると、多くの数量を供給しなければ、もともとマージンの小さい生鮮作物の供給において採算はとりづらい。よって、すでに近代的小売や外食チェーンに納入している生鮮専門卸やアグリゲーターに対して作物を供給するのがもっとも現実的なプランである。外食においては、セントラルキッチンを導入している外食チェーンや、高価格帯の作物を扱うホテルやレストランなど、配送先が絞られる場合は自社での供給も可能かもしれない。

なお、本調査の対象範囲ではないが、一歩進んで自社で加工設備を持つことができれば、選択肢は広がる。ケニアにおいて、農産物の加工は需要に対して供給できる企業が少ない領域である。外食チェーンとしてとりあげた KFC は、同社にとって主要なメニューであるポテトを欧州やエジプト、ザンビアなどから加工・冷凍した状態で輸入している。ケニアにもじゃがいも農家は多いものの、KFC が求める量のじゃがいもを安定的にポテトに加工し、店舗に配送できる食品加工メーカーが存在しないためである。バリューチェーンにおいては、こういったプロセスの一部を請け負うことができるサードパーティが増えるほど、流通は効率化し、近代的プレーヤーの参入余地が広がる。

日本企業が生鮮作物の川下の需要家となりたい場合は、サプライヤーの選択肢は、近代的小売や外食チェーンが選んでいるのと同じような企業に限定されるだろう。これも本調査の対象範囲ではないが、日本へのケニアの農産物の輸入には、可能性があると考えている。ケニアからの生鮮作物の輸出は、英国を始めとする欧州の近代小売やレストランが主流であるが、昨今では中国への輸出も増えている。季節性のある作物の狭間での供給や、供給地の分散化において、ケニアを選択肢に入れることは検討可能である。

日本企業が川中の集荷、保管、配送に関して、機器や設備を供給するという可能性もある。ただし、コールド倉庫に用いるコンプレッサーや設備は、安価な供給者が市場を占めている。コールド配送を行うリファートラックは、日本から中古車が輸入されているほか、トラックに冷蔵、冷凍部分を取りつける自動車整備業者が存在している。

伝統的流通におけるチャレンジも、もちろん可能である。現在ケニアで B2Be コマースがトライしているような日用品や生鮮作物の伝統的小売への流通は、近代的な食品卸や生鮮卸への萌芽ともいえる。特定の種類または産地の作物を都市部に供給したり、加工して提供する企業は、農協組織や食品加工メーカーのさきがけともいえる。日本が辿ってきた近代化の経験を活かせる面もあるだろう。

付録：個別プレーヤープロフィール

Start-ups

Name of enterprise or entity	Taimba
Major business or functions	Offering a platform that links rural farmers directly with buyers to shorten the agricultural supply chain by eliminating middlemen.
Recent developments	The Company took up logistics, which now integrates cold chain storage following the raise of transportation costs in 2020, to provide free transportation through third parties for the retailers.
Reference URL	https://taimba.co.ke/

Name of enterprise or entity	Kyosk
Major business or functions	The Company provides a seamless and direct link between suppliers, traditional retailers as well as farmers and local eateries. It empowers shops and eateries by ensuring that they can conveniently order from the comfort of their phones through the Kyosk app and enjoy the delivery of affordable products within 24 hours
Recent developments	In July 2023, the Company has acquired Kwik Basket, which has been using technology to provide agricultural produce to consumers, as part of its expansion into the African fresh produce market.
Reference URL	https://www.kyosk.app/

Name of enterprise or entity	Twiga Foods
Major business or functions	The business-to-business (B2B) marketplace platform that sources farm produce directly from farmers and delivers it to urban retailers. The Company has also taken up packaging, with its in-house brands of maize and wheat flour, cooking oil and ketchup.
Recent developments	The Company laid off 211 of its over 1,000 employees at the close of 2022, and 267 of its 810 workers in August 2023. The restructuring is part of the company's plan to slash costs by up to 40 per cent and achieve what they called a lean, agile and cost-effective organization.
Reference URL	https://www.twiga.shop/landing-page?nextPage=/

Name of enterprise or entity	iProcure
Major business or functions	Connecting agricultural manufacturers and distributors to local retailers (agro-dealers), through its unique distribution infrastructure that interlinks agricultural supply chains.
Recent developments	The Company secured \$10.2 million in series B funding in August 2022. This round was led by Investisseurs & Partenaires (I&P), and it brings the total funding raised by iProcure, so far, to \$17.2 million.
Reference URL	https://iprocu.re/

Name of enterprise or entity	Tawi Fresh
Major business or functions	The Company uses its e-commerce platform to connect farmers to a market such as commercial kitchens. It is also providing loans and training these farmers on capacity building.
Recent developments	In 2023, SC Ventures launched Tawi Fresh to improve price transparency and financial access for smallholder farmers in Kenya.
Reference URL	https://login.tawifresh.com/

Fresh produce packers & Exporting farmers

Name of enterprise or entity	Vegpro Kenya
Major business or functions	Vegpro is at the forefront of the growing, packing and exporting of a wide range of vegetables from Kenya to both UK and European retailers. A particular strength is prepared vegetables and the company has been a major supplier to the UK prepared category since 1998.
Recent developments	Its farm has a biogas plant, the largest of its kind in East Africa, with a capacity of 3.4 megawatts, which converts waste products generated during harvest and processing into electricity and liquid organic manure.
Reference URL	https://www.vegpro-group.com/group-companies/vegpro-kenya-ltd/

Name of enterprise or entity	AAA Growers
Major business or functions	The leading exporters of premium & prepared vegetables from Kenya and the largest commercial grower and exporter of chillies from Kenya.
Recent developments	The Company grew from a single production site to four sites, and now it cultivates nearly 650 hectares of arable land from its in house production alone, and boasts four custom-built food processing factories.
Reference URL	https://www.aaagrowers.co.ke/

Name of enterprise or entity	Evergreen Fresh
Major business or functions	Growing fruits, herbs and vegetables in its farms and delivering to the Nairobi retail and food service sectors.
Recent developments	Founded in 2021 as part of the Agris Group of companies.
Reference URL	https://www.evergreenfresh.net/

Name of enterprise or entity	Kenya Horticultural Exporters
Major business or functions	Growing and packing more than 20 different crops and exporting them.
Recent developments	The Company took up InspiraFarms' mobile pre-cooler to reduce external temperature shocks on fresh produce immediately after harvest.
Reference URL	https://khekenya.com/

Name of enterprise or entity	Spisa Kenya
Major business or functions	Spisa Kenya is a company specializing in the growing, packaging and distribution of fresh herbs to customers around the world.
Recent developments	Offering regular trainings to its farmers to ensure they understand its emphasis on food safety, full product traceability and good agricultural practices.
Reference URL	https://www.spisakenya.com/

Name of enterprise or entity	Majestic Mushroom
Major business or functions	Growing mushrooms and delivering them to stores and retail chains across Kenya.
Recent developments	Incorporated in 2019. Developed its farm located in a serene area next to Lake Naivasha.
Reference URL	https://majesticmushroomsLtd.com/

Name of enterprise or entity	Molly Farm
Major business or functions	Growing crops such as sweet potatoes, sweetcorn, and Irish potatoes and delivering them to clients including supermarkets in Kenya.
Recent developments	The Company developed a 20-acre farm in the tranquil landscape of Tigoni that has been in operation for the past 25 years.
Reference URL	https://www.mollyflowerskenya.com/

Fresh produce wholesalers

Name of enterprise or entity	Picked and Packed Fresh Produce
Major business or functions	The Company offers a platform connecting fruit farmers and retailers.
Recent developments	The Company has grown to work with approximately 1500 farmers with a majority comprising of smallholder farmers in farmer groups. Constantly serving the market with 40 tons of produce every week to supply bananas, mangoes, passion fruits, avocados, watermelons and paw paws.
Reference URL	http://pnp.co.ke/

Name of enterprise or entity	Jarin Investment
Major business or functions	Exclusive supplier to about 30 Quickmart stores.
Recent developments	Developed its own cold room in Ruai.
Reference URL	N/A

Name of enterprise or entity	The Corner Shop
Major business or functions	Operating fruit and vegetable stores
Recent developments	N/A
Reference URL	https://www.facebook.com/p/The-Corner-Shop-Ltd-100033068535367/

Name of enterprise or entity	Fresh An Juici
Major business or functions	Fruit and vegetable wholesaler
Recent developments	Launched BEYOND FRUITS LTD, a new member of Fresh An Juici Group in 2017 to cater the Kenyan Retail market with Fresh Fruits & Vegetables.
Reference URL	https://www.beyondfruits.co.ke/old-website/

Name of enterprise or entity	Rommkad
Major business or functions	Fruit and vegetable wholesaler
Recent developments	N/A
Reference URL	N/A

Name of enterprise or entity	Kathy's Fresh
Major business or functions	Fruit and vegetable wholesaler. Delivering fresh produce to clients including business owners, schools, etc.
Recent developments	N/A
Reference URL	https://kathysfresh.com/

Name of enterprise or entity	Fine Aromas of Kenya
Major business or functions	Procuring fresh produce and delivering them to the clients such as Carrefour, Powerstar supermarket, hotels, restaurants and schools, etc.
Recent developments	The Company has grown to work with farmer groups in Muranga, Loitoktok, Yatta, Narok, Naivasha, Kinangop and Mau Narok and to supply fresh produce to Carrefour supermarket (8 stores), Powerstar supermarket (5 stores), etc.
Reference URL	https://www.koan.co.ke/

Fresh produce importers

Name of enterprise or entity	South Lemon
Major business or functions	Importing fresh fruits from several parts of the world such as Egypt, Spain, South Africa, France, and Israel and delivering them to wholesalers, retailers and supermarkets.
Recent developments	Its modern fleet of refrigerated delivery vehicles ensure that the freshness & crispness of the product is not lost while in transit. The Company has developed supply networks throughout Kenya, parts of Uganda and soon will be established in other parts of Eastern Africa.
Reference URL	https://www.south-lemon.com/?fbclid=IwAR2btRlpRtHPHzAonPPDDWgV0rtgcdcxBRv-OWaZ7Eh9avYdleH3BX_hnkz4

Name of enterprise or entity	Tiba Food Export
Major business or functions	Importing fruits and vegetables from EU and sending them directly to its partners in Kenya, Uganda, Asia, and Gulf areas.
Recent developments	The Company has developed 3 farms in four different sites in Egypt that are accredited with: The Global G.A.P certificate The ISO9001Certificate
Reference URL	https://tibafood-eg.com/

Nuts

Name of enterprise or entity	Heykal
Major business or functions	Fruit and vegetable wholesaler
Recent developments	Supplying fresh produce to Naivas
Reference URL	https://naivas.online/supplier/heykal-packers-distributors-limited

Name of enterprise or entity	Cerealbox
Major business or functions	Imports, processes and supplies nuts to Quickmart
Recent developments	N/A
Reference URL	https://cerealbox.co.ke/

Name of enterprise or entity	Eve Food
Major business or functions	Imports, processes and supplies nuts to Carrefour
Recent developments	N/A
Reference URL	N/A

Name of enterprise or entity	Equatorial Nut Processors
Major business or functions	Sourcing raw nuts locally, processing and exporting
Recent developments	The Company expanded into production of fortified blended food and cotton. They also expanded its nutritional portfolio to include energy drinks, healthy soups and porridges.
Reference URL	https://www.equatorialnut.co.ke/

Name of enterprise or entity	Kenya Nuts Company
Major business or functions	Growing, processing and exporting macadamia & cashew nuts.
Recent developments	The Company started by growing nuts and has grown to include coffee, chocolates and oils with over 4,000 employees and seven farms on over 8,000 acres.
Reference URL	https://www.kenyanut.com/

Leading fresh food processors

Name of enterprise or entity	TruFoods
Major business or functions	Sourcing crops from farmers across Kenya and manufacturing various products ranging from table spreads & sauces, food essences, baking products
Recent developments	In 2017, the Company was recognized for its full implementation of the international Standard on Food Safety ISO 22000:2005.
Reference URL	https://trufoods.biz/

Name of enterprise or entity	Premier Foods
Major business or functions	Manufacturing over 50 products including sauces, jams, fruit juices, tinned fruits, squashes, and syrups without compromising on quality
Recent developments	When all the local brands were banned from the supermarket by the Kenya Bureau of Standards, the Company's brand, Peptang remained because it has no aflatoxin.
Reference URL	https://www.peptang.com/

Name of enterprise or entity	Del Monte
Major business or functions	Operating its pineapple farm in Kenya and supplying most British supermarkets.
Recent developments	The Company's land is under threat of diminishing following the recent ceding of huge portions to the counties of Murang'a and Kiambu, reported in September 2023. They urged the government to expedite renewal of the company's land lease to save jobs. They have 6,500 directly employed workers and another 28,000 indirectly employed workers.
Reference URL	https://www.facebook.com/DelMonteKe/

Perishables warehousing companies

Name of enterprise or entity	Africa Logistics Properties
Major business or functions	The Company acquires, develops and manages modern grade-A warehousing across East Africa.
Recent developments	In 2022, the Company opened modern warehouse units that include a plug and play office space overlooking the warehouse from 500sqm (5,400sq ft) available to lease immediately.
Reference URL	https://africawarehouses.com/

Name of enterprise or entity	Cold Solutions East Africa
Major business or functions	Operating storage facilities together with transportation and management services
Recent developments	In 2020, the Company has announced that it will invest KSh 7.5 billion (USD 70 million) in constructing state-of-the-art, temperature-controlled cold storage warehouses in Tatu City Special Economic Zone in Nairobi.
Reference URL	https://www.coldsolutionseastafrica.com/

Perishables transporting companies

Name of enterprise or entity	Big Cold
Major business or functions	Providing cold chain solutions across East Africa from its anchor facility in Nairobi, Kenya. Experienced in storing and delivering perishable products on time and at the right temperature.
Recent developments	In 2021, the Company entered into an asset purchase agreement with Unga Group to purchase its subsidiary Ennsvalley Bakery's assets.
Reference URL	https://www.bigcold.com/

Name of enterprise or entity	Kuehne+Nagel (Kenya)
Major business or functions	Offering perishables logistics services
Recent developments	In September 2023, the Company got an approval by the competition authority to acquire rival Morgan Air and Sea Freight Logistics Kenya Limited for an estimated Sh8 billion.
Reference URL	https://ke.kuehne-nagel.com/locations

Supermarkets

Name of enterprise or entity	Naivas
Major business or functions	Operating supermarket stores in Kenya. Also offering online shopping and delivery service.
Recent developments	In October 2023, the Company has opened its 100th branch and targets two additional units by the end of the year.
Reference URL	https://naivas.online/

Name of enterprise or entity	Quickmart
Major business or functions	Operating supermarket stores in Kenya.
Recent developments	The Company has grown to operate a total of 59 branches in 15 counties across Kenya with a total workforce of 6,000+ employees.
Reference URL	https://quickmart.co.ke/

Name of enterprise or entity	Carrefour
Major business or functions	Operating supermarket stores in Kenya.
Recent developments	In March 2023, the Company has unveiled a first-of-its-kind self-checkout service at its store. In October 2023, it has opened its new branch and now pushes its countrywide stores to 21, with 17 of them in Nairobi.
Reference URL	https://www.carrefour.ke/mafken/en/

Name of enterprise or entity	Foodplus
Major business or functions	Operating an independent chain of supermarkets.
Recent developments	In February 2022, the Company has opened its 24th branch. They have now 26 branches as of October 2023.
Reference URL	https://www.foodplus.co.ke/

Fresh produce stores

Name of enterprise or entity	Zucchini
Major business or functions	Operating grocery stores focusing mostly on fresh produce and selling their products to restaurant chains such as Java House, hotels, lodges in the Maasai Mara, and safari camps.
Recent developments	The Company has ventured into e-commerce in recent years and works through Jumia, Glovo and UberEats to deliver groceries to its clients. It also uses the direct-to-consumer model where clients buy directly from the website.
Reference URL	https://zucchini.co.ke/

Name of enterprise or entity	Beyond Fruits
Major business or functions	Operating grocery stores specializing in fresh fruits and vegetables
Recent developments	Launched in 2017 as a new member of Fresh An Juici group.
Reference URL	https://www.beyondfruits.co.ke/

Name of enterprise or entity	The Corner Shop
Major business or functions	Operating fruit and vegetable stores
Recent developments	N/A
Reference URL	https://www.facebook.com/p/The-Corner-Shop-Ltd-100033068535367/

Name of enterprise or entity	Field Fresh
Major business or functions	Operating vegetable and fruit stores offering high quality and safe local and imported produce
Recent developments	N/A
Reference URL	https://fieldfresh.co.ke/

Food chains

Name of enterprise or entity	JAVA HOUSE
Major business or functions	Java House is one of the leading coffee brands in Africa and has grown to have outlets in 14 cities across 3 countries in East Africa (Kenya, Uganda and Rwanda). It has also birthed two sister brands Planet Yogurt, a frozen yogurt store and 360 Degrees Pizza, a casual dining restaurant.
Recent developments	Opened its 70 th store in 2020.
Reference URL	https://javahouseafrica.com/

Name of enterprise or entity	Kuku Foods Kenya
Major business or functions	Operating KFC (Kentucky Fried Chicken) branches.
Recent developments	In 2021, the Company opened a new branch in Mombasa, the first branch by KFC in the county to bring its total count to 24. The new outlet occupies 220 square metres with a maximum seating capacity of 50 people.
Reference URL	https://kenyatradeportal.go.ke/content/kuku-foods-kenya-ltd

Name of enterprise or entity	Simbisa Brands Africa
Major business or functions	Operator of various fast-food restaurants, these include; Chicken Inn, Pizza Inn, Creamy Inn, Galito's, Stop & Shop & Bakers Inn. The Company has an extensive footprint in Africa, with outlets in Zimbabwe and 10 African countries including Kenya.
Recent developments	In 2022, Simbisa Brands becomes the 6th listing on Victoria Falls Stock Exchange (VFEX).
Reference URL	https://www.simbisabrands.com/